

会報

大学生協友の会

2023年6月1日  
第38号  
大学生協友の会発行〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111  
E-mail univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

## 7月友の会定例総会開催案内

大学生協友の会幹事長 伊野瀬十三

会員におかれましては、恙なくお過ごしのことと存じます。

コロナ感染症は今のところ落ちついていますが、隣国、中国では再び流行の兆しが見えてきており、公共交通機関等でのマスク着用が義務化されたようです。日本においてもこの先また流行することは必死とされていますが、政府のコロナ対策は依然として不安を残しています。

先頃広島サミットが開催されました。ゼレンスキー大統領の来日やグローバルサウスといわれる国々の参加もあり、巷間では大成功とされ岸田内閣の支持率が大幅に上昇しました。しかし、広島サミットは本当に成功したのでしょうか。サミットの成果文章では、このサミットが被爆地広島での開催にも拘わらず核兵器の抑止力の重要性を容認しており「核なき世界」実現への決意は全く感じられません。ロシアのウクライナ軍事侵攻についても停戦やウクライナの戦後復興についてはほとんど議論されず、G7各国の武器供与競争の様相を呈しこの戦争を煽つ

ている感すらします。

こうした中で、岸田内閣は、国内においては「安全保障」文書改悪し、防衛費(軍事費)の大幅増を進めています。今通常国会では、防衛費増額のための財源確保法案や防衛産業の資金援助を可能とする法案の通過をめざしています。さらに憲法改悪の動きも活発化しています。最近、高齢世代が現役世代との分断政策によって、保守化し、右傾化しているとの報道もあります。戦後民主主義の中で育ち、それを守ってきた、老人パワーを今こそ発揮しなければならぬと思います。

さて、来る7月8日(土)友の会定例総会が開催されます。総会は会員の入会をいかに促進していくのかが大きなテーマです。ここ数年定年退職者は毎年二けたを超え、さらにコロナの影響による中途退職者も増えています。しかし、友の会に入会するかは少人数に止留まっております。今後の友の会活動に支障をきたす状況になってきました。幹事会としましては退職者への

友の会の周知徹底、懇親会への招待、会報の改善、そして何よりも友の会自身の魅力向上に向けて検討してまいりたいと思っています。友の会はこうした活動を通じ、大学生協の再生のために奮闘している役職員の皆様を引き続き応援してゆきます。会員の方々の総会へのご参加をお待ちしています。

## 第31回総会開催の詳細案内

日時…2023年7月8日

(土) 午前十一時～午後十五時

場所…大学生協杉並会館

第一部…総会 午前十一時～午後十二時

議題…定例議題、役員選任

第二部…特別報告 午後十二時～午後十三時

内容…ポストコロナへ

報告…大学生協連広報調査部長

大築 匡(前東京事業連合常務理事)

第三部…懇親会 午後十三時～午後十五時

【お願い】欠席の方含め近況報告のご記入(別紙同梱の)は、き、またはこの頁冒頭のイメール)にご協力ください。6月24日(土)迄にお寄せください。

## シリーズ「会員からの活動報告」

### 生活支援員の活動紹介 住み慣れた地域で自立した日常生活を送る為に

小塚和行



昨年12月の「友の会親睦会」での近況報告で、市民後見人の活動を始めたことを書きました。会報編集からこの生活支援員の活動を紹介してほしいとの依頼を受けて、活動概要と参加動機と体験などをまとめてみました

#### 生活支援員の仕事

各自自治体では、判断能力の不十分な高齢者や知的障害・精神障害のある方などが、安心して生活が送れるように、定期的に訪問して、福祉サ-

ビスの利用手続きや暮らしに必要なお金の出し入れのお手伝いをしています。埼玉県ではこの事業を「あんしんサポートねっと」と呼び、以下のような援助を行っています。

- 一 基本サービス
- (1) 福祉サービス利用の手続きのお手伝い (援助)
- 二 選択サービス
- (1) 日常生活上の手続援助
- (2) 日常的な金銭管理
- (3) 書類等預かりサービス

この事業は、社会福祉協議会(社協)が主体となって実施しており、利用者は地域の社会福祉協議会と契約して利用します。契約後はそれぞれの生活状況や身体の状態、本人の希望をもとに支援計画を立て、専門員(社協職員)とともに生活支援員が定期的に利用者を訪問し、具体的な支援を行います。

#### 生活支援員になった動機

自分自身が70歳になり、これから身体が不自由になったり、判断能力が衰えていたりしたときに、いづれ誰かの世話になることも考えられ

るので、今元気なうちに地域でできる範囲で困っている方のお手伝いをしておこう、と思ったのが支援員に応募した動機です。

ふじみ野市の社協が主催している「市民後見人養成講座」を2か年間受講して、地域の高齢者や障害者の状況、それを支援するための法律を始めとする制度や政策、市民後見人や生活支援員の役割と仕事などを学びました。

#### 実際の活動と体験

私が現在担当している方は65歳の男性で、自宅で父親と暮らしています。統合失調症の関係もあり福祉サービスの利用を申し込みました。支援内容は、月1回自宅に訪問して、1か月の間に届いた郵便物を見せていただき、その内容の説明や対応・処理についてのアドバイスをする事です(日常生活上の手続援助)。納税や年金の通知、携帯電話やインターネット回線などの各種契約に関する通知や請求、銀行などからの届出書類の提出通知など、一つ一つ内容を確認してご本人に説明し、どのように対応すればいいかを説明します。契約の経過や現在の支払い状況などをご本

人に尋ねてもすぐに思い出せなかったり、関係する書類が整理されていないためすぐに探し出せなかったりして、銀行の通帳などを見て確認したり、郵便物の送付先に電話をして状況確認をしたりすることもあります。

1回の訪問は1時間を予定していますが、上記のような対応をしていると1時間もあつという間に経ってしまします。

郵便物も、その方の生活、趣味や関心ごとなどに関わっているものもあり、より正確によりご本人の気持ちややりたいことに沿った対応をしていくには、ご本人との対話を通じて理解を深めていくことが求められます。その意味では、まだ始まったばかりでご本人との関係づくりはこれからだと思っています。

生活支援員の活動は、市民後見人の業務を受託するため、体験研修の一つとしても、位置付けられています。先般、ふじみ野市高齢福祉課の面接・打診を受けたので、今年は新たに市民後見人の活動を始めることになるかもしれせん。



# 難波田城公園・資料館でのボランティア活動

小林 茂雄



難波田城（なんばたじょう）公園・資料館（以下資料館）は、中世に富士見市を本拠に活躍した難波田氏の城館跡を発掘・整備し、2002年に開園した歴史公園で、埼玉県旧跡にも指定されています。難波田氏の始祖は、2022年NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」でも取り上げられた承久の乱に参陣し宇治川の合戦で討死、その遺族が恩賞としてこの地を与えられたと伝えられています。

私がこの富士見市に転居したのは、定年を4年後に控えた2011年でした。定年後の生活を考える中で「多少田舎に行くか」くらいの気持ちで移り住んできました。

転居してあまり日をおかずに、妻は知り合いもいないなかで、市役所に通い現役時代の特技を活かして「子育て支援」のボランティア活動を始めました。積極的に地域の活動に参加する妻の姿を見て、地域でなにも繋がりが無い自分に「これからの長い老後にこのままではまずい！」との意識がつのってきました。

以前から定年後は家族以外の人と接する場を意識して作ることが必要だと聞いていました。

そのような思いを持っていた2017年、市の広報誌で資料館の「市民学芸員養成講座」の案内を見つけました。資料館は何回か訪れていて気に入っていましたので、早速申し込み、8月から翌年8月までの期間で2回の講座を受講することとなりました。めでたく2018年4月に「富士見市立資料館市民学芸員」の委嘱状を頂くことができ、ボ

ランティア活動がはじまりました。

市民学芸員の主な活動は

① 資料館にお越しになった方への園内ガイド（土曜・日曜・祝日）

② 資料館の行事（公園祭り、古民家宿泊体験、小学校社会科見学等）への参加・お手伝い

③ 市民学芸員の自主的な活動（市民学芸員対象の講座、館外研修等）の企画検討・実施

④ 月1回の定例会の参加・運営

再雇用での勤務があるうちは土曜日曜を中心とした活動でしたが、現在は平日含めて資料館に通って活動に参加しています。活動の中心は、資料館にお越しになった方への園内ガイドです。初対面の人にお話しするので、少なからず勇気がいります。ある時近隣の市からお越しになったご婦人に園内ガイドを行ったあと、「富士見市はいいわね。このような貴重な公園を大切に維持されていて。私の住んでいる街にも欲しいわ!」とのお褒めの言葉を頂けた時は嬉しかったです。また、市民学芸員も全体でそれなりの人数が登録されて

いますが、日常的な会議資料作成・運営、組織運営等、現役時代の経験も活かすことができています。

残念なことにこのコロナ禍で3年近く活動中止や制限がかけられていましたが、このところの沈静化でようやくもとの活動に戻ってきています。お近くにお越しの際は難波田城公園・資料館にぜひお立ち寄り下さい。事前にご連絡いただければ園内ガイドもさせていただきます。



## 初等教育の現場から観る

風景

木村 博幸



皆さん、ご無沙汰しております。在職中は何かとお世話になり、お付き合いいただきしましたことを、紙面を借りて御礼申し上げます。

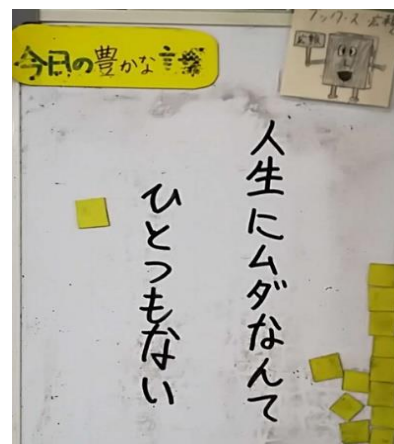
私は2022年3月をもって全国大学生協連をリタイアし、現在は都内の公立小学校で「副校長補佐」の業務に就き、これまではできるだけ近づきたくないと考えていた職員室で、8面6臂の副校長を補佐しながら、個性豊かな教職員と楽しく仕事をさせていただいております。幼い6年生から、少し生意気になりつつある6年生まで、孫のよ

うな存在が一気に600人も増えました。

年格好から、就任当初は児童に「新しい校長先生ですか?」と誤認されたこともありましたが、私にとって小学校という職場は前頭葉を刺激する、実に面白い世界です。児童や教職員とのコミュニケーションは格別であり、校庭に目をやれば、子どもたちの歓声がこだまします。

副校長職は学校教育法の改正(2007年)に伴い、校務全般をマネジメントするために都内の公立小・中学校で教頭職に代わって設置されました。副校長の守備範囲が広く、負担が大きいことから、これを補佐・分担する体制が整備されるようになりました。

小学校の教員は心身共にタフです。学期ごとに実施される授業観察・評価・個人面談等の体系



化と、校長一・副校長一・主幹教諭一・指導教諭一・主任教諭一・教諭といった学校経営の管理体制のもとで、不登校や精神的に不安定な児童へのケア、児童の親との複雑な関係と葛藤しながらも、実際の教育現場は和気藹々とした空気が醸成され、子どもたちの成長を支える強い意志と活力に満ち溢れています。

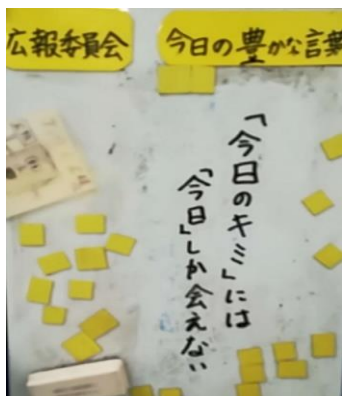
「給特法(国立及び公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法)」により、時間外手当や休日出勤手当が支給されないにもかかわらず、多くの教員は1日平均10〜12時間にも及ぶ長時間労働とギリギリの人員体制のもとで教育現場を支えています。

2022年6月、大阪府立高 school 教諭(時間外平均102時間超/適応障害で3か月間の休職)による、大阪府を相手どった裁判(「適切な労務管理を求め」)が結審を迎えました。大阪府側は「給特法上、教員の時間外勤務のほとんどは自主的・自発的なものであり、勤務時間の把握や管理職の安全配慮義務には限界がある」と主張しましたが、大阪地裁はこれを退けて、現場が「からだ大事にしてや」という軽減策を講じなかったとして、

安全配慮義務違反があると認定。大阪府に対して230万円の損害賠償を命じる判決を下しました。制度改定を含む本質的な問題解決の道のは険しいものの、この司法判断は今後に繋げていくうえで意味のある判例となりました。

本校では、近郊にある東京学芸大学と事業連携プログラム等を通じた交流があり、初等教育におけるSDGsの関連授業やICT教育の調査・研究で来校する学生たちは眼を輝かせています。この他、弁護士等の専門家による「人権学習」(大学教員が講師の場合はゼミ等の学生も同席)や、その道の匠から生活に密着したテーマで学ぶ「出前教室」、地元農家に訪問する「体験授業」等、想像力を掻き立てる学びの実験装置が仕掛けられています。校庭は、子どもたちの外遊びや生涯スポーツの振興をはかるNPO法人の協力で、ほぼ全面が芝生化されています。維持管理費や、養生期間中は校庭が使えなくなることから芝生化が敬遠されがちですが、本校は養生をしなくても良好な状態を維持できている希有な成功例となっています。





本校の興味深い特徴のひとつに、自ら進んで「はたらく子」を育てるといふ教育方針の実践があります。5・6年生で構成する「広報委員会」活動は定期的にメッセージや格言を校内に貼り出して(写真ご参照)児童たちの心を揺さぶり、学校公開や展覧会に訪れた父兄に自分たちの作品を紹介する「子どもガイド」がマンツーマンで付き添います。彼ら6年生も間もなく、在校生にバトンを託して卒業していきます。

こうした子どもたちの成長の足跡を間近に垣間見ることができるのが私の元気と健康の源であり、新たに発見した、やりがいのある職場に日々感謝しています。

そして、子どもの貧困と格差拡大のもとでこの国はどこへ向かうかとしているのか、傲慢な、まやかしの政治と訣別しなければ、との思いが強まります。

## オホーツクキャンパスでの貢献



## 会員訪問記 第一回目 東京農大生協 大野専務

皆様、ご無沙汰しております。今回は、北海道網走市の山中にある学生数約1400名のオホーツクキャンパスに農大生協が食堂と購買の運営を開始したことを紹介させていただきます。

東京農大生協のある東京農業大学は世田谷・厚木・オホーツクの3キャンパスに6学部があり、13000人の学生が学んでいます。

116年を迎える東京農大生協ですが、2017年より世田谷キャンパスの購買書籍部の前のプレイガイドとアミ(食堂)を明け渡し、セブンイレブンと焼き立てパンのお店を別業者が運

営を始めたり、大学子会社に自動販売機や学生マンションを移管したり、年々赤字額が大きくなっていました。

そんな中、2011年3月19日(卒業式前日)に、大学事務局から話があるからと呼び出され、「オホーツクキャンパスの業者が撤退の申し出があり、その後の食堂・売店を生協で行ってほしい」と言われました。

コロナ禍で2020年度単年度の経常剰余が過去最大の約4000万円赤字もあり、とても難しい話でした。

農大生協理事会では反対される教職員理事もいましたし、公認会計士にも反対されました。大学には、生協としても検討はするが他の業者にも打診してベストな選択をしていただくようお願いしました。大学も複数の業者にも打診されたようですが、すべて断られていました。オホーツクキャンパスで赤字になり、かつ生協全体も赤字の場合、オホーツクキャンパス分のみ赤字を補填していただくよう学長先生から法人理事長にお願いもしましたが、補填なしで運営してほ

しいと言われました。ただ、学長先生は赤字にならないような様々な協力をする、と熱く多様なアイデアを語っていただきました。

私も現地に何度も訪問し、教職員や学生から様々なお話しを聞く中で、「規模や立地から食堂と売店は一緒に運営しないと成り立たない」「大学や学生教職員と一緒に運営しないと成り立たない」と感じており、それを一番できるのは大学生協がベターなのではないかと思うようになっていました。また、それ以前より入学者の約40%は共済に加入し、約5%は生協PCを購入されていて、組合員が存在していました。



2021年度に入り、PC有料サポート・講座を立ち上げ、生



PC・学食バス・共済加入等も過去最高を更新しました。公務員講座も立ち上げ、夏ころには単年度黒字が見込めるようになりました。また、9月からオホーツクの学生2名を新学期アドバイザーとして採用し、現地の様子もリアルにわかるようになりました。オホーツクでも赤字を出さずに運営する計画をつくり、12月の理事会で決定しました。前の業者は2022年2月末で撤退し、その従業員の皆様に継続して雇用させていただき、2022年4月よりオープンしました。大学も入学式直後に、生協保護者ガイダンスを開いていただいたり、学生生活ガイダンスでも生協の案内をしていたり、授会でも加入や校費利用を呼びかけていただきました。新入生向けの生協加入案内にも学長先生からのメッセージを寄せていただくようになりました。

2022年度の経常剰余は、オホーツクキャンパス購買・食堂合計で123万円・生協全体で387万円の黒字を残すことができました。今後はさらにサービスを充実させ、より満足度をよう奮闘していきます。陰ながら応援していただければ幸いです。今後ともよろしく願います。

事業年度変遷 2019年～2022年度

単位万円

	2019	2020	2021	2022
出資金額	26,892	24,970	24,020	22,797
供給高	123,135	69,826	87,647	98,321
経常剰余金	△1,760	△3,997	1,907	387



3キャンパスの関連する食材を3キャンパスの生協食堂で



オホーツクキャンパスでは市や漁協とも連携

### 【第3回幹事会開催報告】

- 日時／2023年4月8日(土)  
場所／大学生協連 杉並会館  
出席／伊野瀬、岡安、釜田、倉橋、説田、平田、和久井、茂垣、柴田、中村、大久保(幹事) 古越 和知(会計監査)  
欠席／馬場、宮寺、薄葉、山崎、藤村、塩谷(幹事)  
〈協議事項〉
- ① 2023年度間活動計画
  - ② 2023年度友の会総会特別企画について
  - ③ 2023年度友の会幹事・会計監査選任について
  - ④ 第38号会報(2023年6月発行予定)について
  - ⑤ 2023年度総会日程  
7月8日(土) 11時開会
  - ⑥ 2023年12月会員親睦会日程確認  
開催日2023年12月2日(土) 14時開会(大学生協杉並会館)
  - ⑦ 次回第1回幹事会  
2023年7月8日(土) 10時開会(大学生協杉並会館)
- 上げられる